

# 一貫教育校の広場

幼稚園

横浜初等部

普通部

中等部

湘南藤沢  
中等部・高等部

高等学校

志木高等学校

女子高等学校

ニューヨーク学院  
(高等部)

## 開設75年記念 多目的棟の建設に向けて

志木高等学校（以下本校）は、2023年に開設75年を迎えます。その記念事業として、多目的棟（仮称、以下本棟）の建設を進めています。本校は、「多様な『交際』ですすめる『数理と独立』の教育」を具体化する手段の一つとして適正規模教育をその根幹に掲げています。それは授業の内容によって、少人数、多人数を適宜使い分けられることを意味しています。それを実現するための最適解の一つが本棟の建設でした。語学のように少人数授業が効果的な場合には、教室が分割できる仕様を備えた教室群を、講演や大規模討論などの多人数運用が効果的な場合には、1学年を収容可能なホールを利用することができ、施設が「多目的棟」になります。これまで、ホールを持たなかった本校にとって、教育の幅は大きく広がります。学年規模の利用が可能になるということは、2年次以降の理科選択、総合的な探究の時間の科目選択、そして3年次の自由選択科目のガイダンスなどをこれまで以上に利便性高く効果的に実施できます。

本棟内に卒業生の一人である大山エンリコイサム氏の壁画を展示予定であることは、過去から未来への接点を象徴させるものと



多目的棟想定パース図（左：エントランス、右：外観）

あります。同氏が卒業記念として過去に本校敷地内に残した壁画は、世界を舞台に創作活動を続けるアーティストの初期作品に位置付けられることになりました。その未来となる2023年に、同氏の最新の作品が本棟の壁を飾るので、このことは、在校生の将来が多様であること、現在が未来につながっていくこと、の良さメッセージになると信じています。

また、本棟は地域との交流を促す舞台装置にもなります。本校で精力的な活動を続ける器楽部やワグネル・ソサイエティー男声合唱団は、これまで外部会場で成果発表を行っていました。これが、ホールを持つことによって自らの学校でも行えることになり、音楽を通じた地域との接点をさらに広げることが期待できます。また、本棟は、美術をはじめとする作品群の展示ができるようになっていきますし、茶室などの日本文化体験施設を備えることで国際交流事業の拠点として機能するようにも考えて設計してあります。

福澤先生の美学の精神に則り、本棟を舞台に「人間交際」がより多様に、より複雑に織り込まれていくことを期待しています。本棟建設には、卒業生を中心とする関係者のご協力が不可欠です。本棟完成までには今少しの時間がかかりますが、より多くの皆さまのご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

● 志木高等学校 教諭

宮橋裕司  
みやはしひろし